

新 温 監 第 2 0 号

令和7年8月26日

新温泉町長 西 村 銀 三 様

新温泉町議会議長 池 田 宜 広 様

新温泉町監査委員 島 田 信 夫

新温泉町監査委員 小 林 俊 之

令和6年度 新温泉町公営企業会計決算審査意見の提出について

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき審査に付された令和6年度新温泉町各公営企業会計の決算について審査を行ったので、次のとおり審査意見を提出します。

#### 記

- 1 新温泉町浜坂温泉配湯事業会計
- 2 新温泉町水道事業会計
- 3 新温泉町下水道事業会計
- 4 新温泉町公立浜坂病院事業会計



令和 6 年度

新温泉町公営企業会計決算審査意見書

新温泉町監査委員

## 目 次

|     |              |    |
|-----|--------------|----|
| 第1  | 審査の概要        | 1  |
| 1   | 審査の対象        | 1  |
| 2   | 審査の期間        | 1  |
| 3   | 審査の手続        | 1  |
| 第2  | 審査の結果        | 1  |
| 第3  | 事業ごとの決算概要    |    |
| I   | 新温泉町浜坂温泉配湯事業 | 2  |
| 1   | 事業の概要        | 2  |
| 2   | 収支と財政状況      | 3  |
| 3   | 経営指標の推移      | 4  |
| II  | 新温泉町水道事業     | 6  |
| 1   | 事業の概要        | 6  |
| 2   | 収支と財政状況      | 7  |
| 3   | 経営指標の推移      | 11 |
| III | 新温泉町下水道事業    | 13 |
| 1   | 事業の概要        | 13 |
| 2   | 収支と財政状況      | 13 |
| 3   | 経営指標の推移      | 15 |
| IV  | 新温泉町公立浜坂病院事業 | 17 |
| 1   | 事業の概要        | 17 |
| 2   | 収支と財政状況      | 19 |
| 3   | 経営指標の推移      | 24 |
| 第4  | 審査意見         | 27 |

## 令和6年度 新温泉町公営企業会計決算審査意見

### 第1 審査の概要

#### 1 審査の対象

- (1) 新温泉町浜坂温泉配湯事業会計決算
- (2) 新温泉町水道事業会計決算
- (3) 新温泉町下水道事業会計決算
- (4) 新温泉町公立浜坂病院事業会計決算

#### 2 審査の期間

令和7年6月24日から25日まで

#### 3 審査の手続

審査に付された決算報告書、財務諸表（損益計算書、剰余金計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）、事業報告書及び附属明細書（収益費用明細書、資本的収支明細書、固定資産明細書、企業債明細書）について、関係法令に準拠して作成され、当事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、会計帳票その他関係証書類、諸帳簿と照合するとともに関係職員の説明を求めて審査を実施した。

なお、審査に当たっては、当事業が経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように運営されたかどうかを検討するため、事業の経営分析を行った。

### 第2 審査の結果

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属明細書は、関係法令に準拠して作成されており、当事業の当年度の経営成績及び当年度末現在の財政状態を適正に表示しているものと認められた。

地方公営企業法第3条の経営の基本原則に沿って、常に企業としての経済性を発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進するため、職員が総力を挙げて業務に取り組んでいるが、今後において、各事業等いずれも益々厳しい財政事情を勘案するとき、中長期的経営状況を見据えながら業務運営の促進を図り経営改善に資するようなお一層の努力を要望するものである。

なお、各会計の決算の概要は、次項以降のとおりである。

### 第3 事業ごとの決算概要

#### I 新温泉町浜坂温泉配湯事業

##### 1 事業の概要

地域住民の温泉活用による健康増進並びに省エネルギー及び地球温暖化防止対策の一助として開設された浜坂温泉配湯事業は、開設以来42年を経過した。自然の恵みである温泉資源の有効活用と安定的な供給を図るため、老朽化してきている配湯管布設替工事を行い、円滑な供給に努めるとともに配湯事業の健全な運営を推進している。

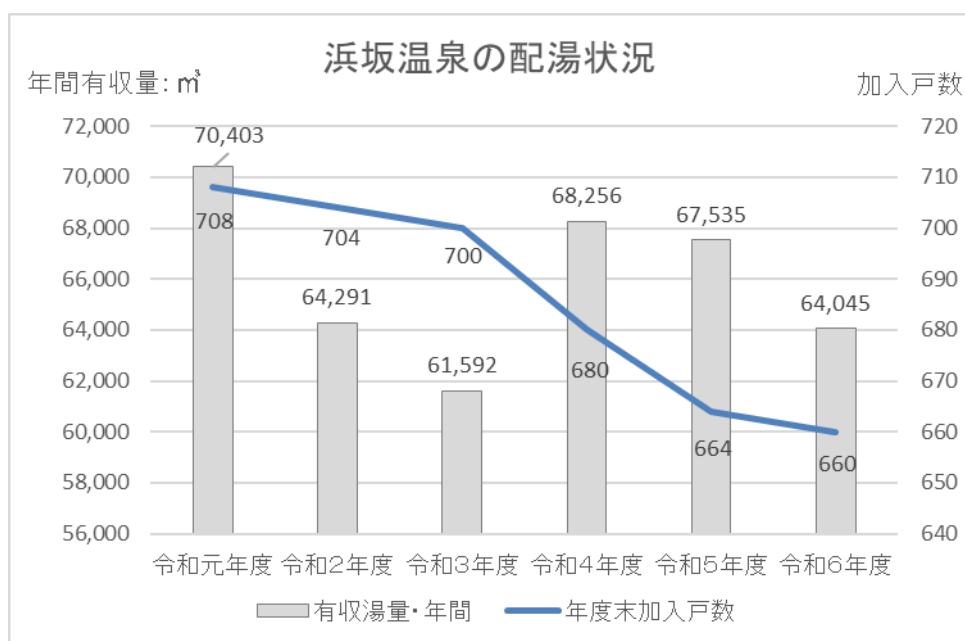
加入戸数及び有収湯量等の推移

| 項 目       | 令和6年度                   | 令和5年度                   | 比較増減    | 増減率(%) |
|-----------|-------------------------|-------------------------|---------|--------|
| 年度末加入戸数   | 660 戸                   | 664 戸                   | △ 4     | △ 0.6  |
| 普及率       | 40.96 %                 | 41.21 %                 | △ 0.3   | △ 0.6  |
| 有収湯量・年間   | 64,045 m <sup>3</sup>   | 67,535 m <sup>3</sup>   | △ 3,490 | △ 5.2  |
| 有収湯量・1日平均 | 175 m <sup>3</sup>      | 185 m <sup>3</sup>      | △ 10    | △ 5.4  |
| 給湯原価      | 697円21 銭/m <sup>3</sup> | 657円81 銭/m <sup>3</sup> | 39円40銭  | 6.0    |
| 供給単価      | 748円19 銭/m <sup>3</sup> | 680円40 銭/m <sup>3</sup> | 67円79銭  | 10.0   |
| 料金回収率     | 107.31 %                | 103.43 %                | 3.88    | 3.8    |

当年度末の加入戸数は660戸で、新規加入が2戸、空き家等による廃止が6戸あり、年々減少傾向にある。配湯区域内の加入促進が大きな課題となっている。

有収湯量は、年間64,045m<sup>3</sup>、月平均5,337m<sup>3</sup>、日平均175m<sup>3</sup>と、減少しているが温泉活用による健康増進、省エネルギー対策等に貢献している。

また、給湯原価は前年度より40円増加して697円、供給単価は前年度より68円増加して748円となり、料金回収率は、107.31%と3.88ポイント増加した。



## 2 収支と財政状況

### (1) 経営の状況

(単位：円、%)

| 項 目    | 令和 6 年度    | 令和 5 年度    | 比較増減      | 増減率  |
|--------|------------|------------|-----------|------|
| 収益総額   | 49,465,796 | 47,236,178 | 2,229,618 | 4.7  |
| 営業収益   | 48,127,631 | 46,162,859 | 1,964,772 | 4.3  |
| 営業外収益  | 1,338,165  | 1,073,319  | 264,846   | 24.7 |
| 事業費総額  | 44,653,074 | 44,425,124 | 227,950   | 0.5  |
| 営業費用   | 44,311,898 | 44,161,816 | 150,082   | 0.3  |
| 営業外費用  | 341,176    | 263,308    | 77,868    | 29.6 |
| 特別損失   | 0          | 0          | 0         | 0.0  |
| 当年度純損益 | 4,812,722  | 2,811,054  | 2,001,668 | 71.2 |

収益的収支についてみると、純利益は4,813千円で、前年度繰越利益剰余金292,910千円を加えると、本年度末における未処分利益剰余金は、297,723千円となっている。

資本的収支（税込）についてみると、収入17,800千円、支出総額は24,819千円で、収支不足額は当年度分損益勘定留保資金（7,019千円）で補てんしている。

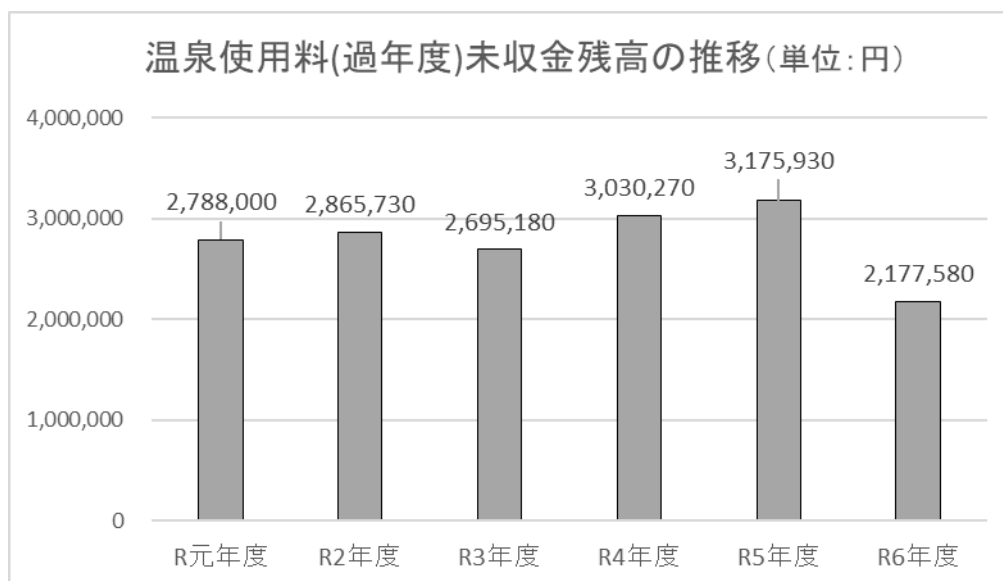
本年度末の預金現金残高は、188,954千円と前年度に比べて12,975千円増加している。

### (2) 未収金の状況

(単位：円、%)

| 項 目        | 令和 6 年度   | 令和 5 年度    | 比較増減        | 増減率    |
|------------|-----------|------------|-------------|--------|
| 浜坂温泉配湯 合計  | 8,122,144 | 10,423,227 | △ 2,301,083 | △ 22.1 |
| 温泉使用料      | 5,353,920 | 5,355,420  | △ 1,500     | △ 0.0  |
| 温泉使用料(過年度) | 2,177,580 | 3,175,930  | △ 998,350   | △ 31.4 |
| その他営業収益    | 0         | 0          | 0           | —      |
| その他        | 590,644   | 1,891,877  | △ 1,301,233 | △ 68.8 |

未収金は、8,122千円となっている。このうち3月分給湯使用料を含む給湯使用料未収分は、7,532千円で、前年度に比べて1,000千円、11.7%減少している。



### (3) 改良工事等の施行状況

浜坂駅港湾線街路事業関連温泉管布設替工事(その2) 18,362千円を実施し、年度内に完了している。

### (4) その他の予算事項

地方公営企業法施行令第17条に規定する予算に係る事項の執行状況は次のとおりである。

#### ア 債務負担行為

債務負担行為は行われていない。

#### イ 企業債

企業債は、本年度新規に17,800千円を借り入れ、未償還残高は、105,070千円である。

#### ウ 一時借入金

一時借入金の限度額は、5,000千円と定めているが、執行されていない。

#### エ 予定支出の各項の経費の金額の流用

流用することができる場合は、「営業費用、営業外費用の各項間」と定められており、他の経費との流用の事実は認められなかった。

#### オ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

流用禁止の経費は、職員給与費であるが、流用はなく議決を受けた予算の範囲内で執行されている。

#### カ たな卸資産購入限度額

当年度のたな卸資産購入額は394千円で、予算に定められている購入限度額2,000千円の範囲内で執行されている。

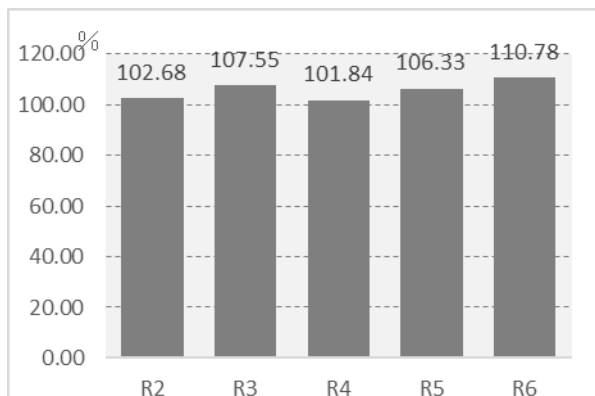
## 3 経営指標の推移

### ■ 経常収支比率 (%)

$$= \frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$$

※収益と費用を対比した経営活動の指標。

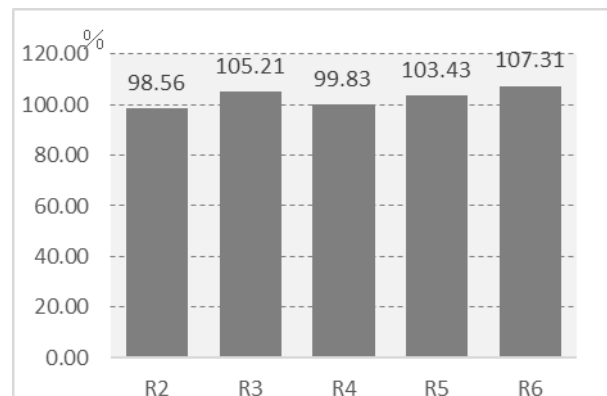
比率が大きいほど良好といえる。



### ■ 料金回収率 (%)

$$= \frac{\text{供給単価}}{\text{給湯原価}} \times 100$$

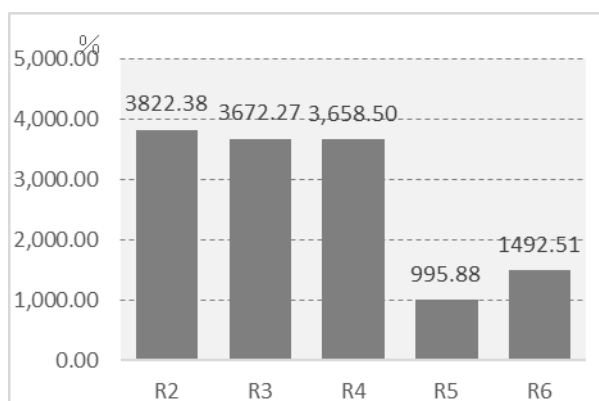
※料金改定の目安となる。



■流動比率（％）

$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

※短期返済能力を示す。100％以上ないと  
資金不足不良債務となる。



## Ⅱ 新温泉町水道事業

### 1 事業の概要

清浄で安心、安全な水を安定的に供給するための施設としての使命を果たし、公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与している。施設整備においては久谷地区の配水管を耐震管に更新する事業を計画的に行っており、安全で衛生的な飲料水の供給に努めている。

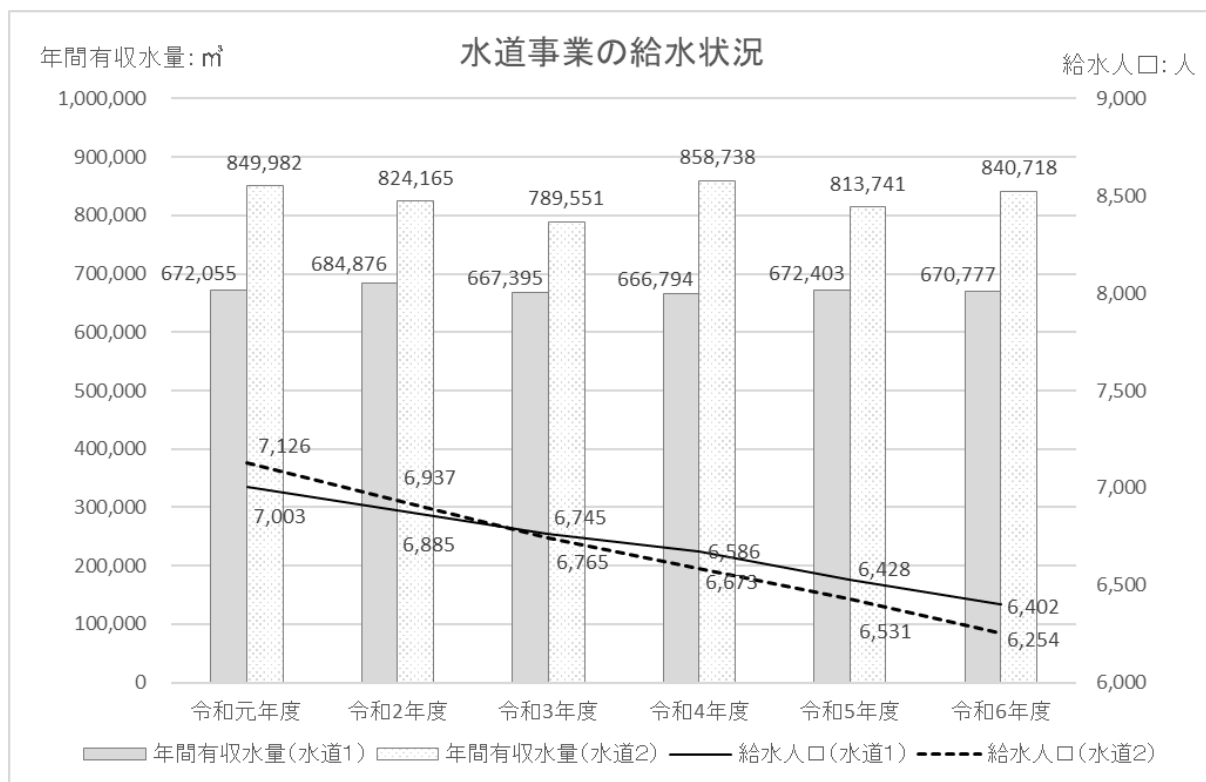
| 水道事業 1 給水状況 |                         |  |                         |  |          |         |
|-------------|-------------------------|--|-------------------------|--|----------|---------|
| 項 目         | 令和 6 年度                 |  | 令和 5 年度                 |  | 比較増減     | 増減率 (%) |
| 年度末給水人口     | 6,402 人                 |  | 6,531 人                 |  | △ 129    | △ 2.0   |
| 年度末給水戸数     | 2,729 戸                 |  | 2,739 戸                 |  | △ 10     | △ 0.4   |
| 普及率         | 100.00 %                |  | 100.00 %                |  | 0        | 0.0     |
| 年間配水量       | 882,164 m <sup>3</sup>  |  | 861,220 m <sup>3</sup>  |  | 20,944   | 2.4     |
| 1 日平均配水量    | 2,417 m <sup>3</sup>    |  | 2,353 m <sup>3</sup>    |  | 64       | 2.7     |
| 1 日最大配水量    | 3,222 m <sup>3</sup>    |  | 2,987 m <sup>3</sup>    |  | 235      | 7.9     |
| 年間有収水量      | 670,777 m <sup>3</sup>  |  | 672,403 m <sup>3</sup>  |  | △ 1,626  | △ 0.2   |
| 1 日平均有収水量   | 1,838 m <sup>3</sup>    |  | 1,837 m <sup>3</sup>    |  | 1        | 0.1     |
| 有収率         | 76.04 %                 |  | 78.08 %                 |  | △ 2.04   | △ 2.6   |
| 給水原価        | 158円80 銭/m <sup>3</sup> |  | 184円06 銭/m <sup>3</sup> |  | △ 25円26銭 | △ 13.7  |
| 供給単価        | 185円17 銭/m <sup>3</sup> |  | 184円60 銭/m <sup>3</sup> |  | 57銭      | 0.3     |
| 料金回収率       | 116.61 %                |  | 100.29 %                |  | 16.3     | 16.3    |

| 水道事業 2 給水状況 |                          |  |                          |  |          |         |
|-------------|--------------------------|--|--------------------------|--|----------|---------|
| 項 目         | 令和 6 年度                  |  | 令和 5 年度                  |  | 比較増減     | 増減率 (%) |
| 年度末給水人口     | 6,254 人                  |  | 6,428 人                  |  | △ 174    | △ 2.7   |
| 年度末給水戸数     | 2,954 戸                  |  | 2,962 戸                  |  | △ 8      | △ 0.3   |
| 普及率         | 97.29 %                  |  | 99.78 %                  |  | △ 2.49   | △ 2.5   |
| 年間配水量       | 1,305,861 m <sup>3</sup> |  | 1,213,223 m <sup>3</sup> |  | 92,638   | 7.6     |
| 1 日平均配水量    | 3,578 m <sup>3</sup>     |  | 3,315 m <sup>3</sup>     |  | 263      | 7.9     |
| 1 日最大配水量    | — m <sup>3</sup>         |  | — m <sup>3</sup>         |  | —        | —       |
| 年間有収水量      | 840,718 m <sup>3</sup>   |  | 813,741 m <sup>3</sup>   |  | 26,977   | 3.3     |
| 1 日平均有収水量   | 2,303 m <sup>3</sup>     |  | 2,223 m <sup>3</sup>     |  | 80       | 3.6     |
| 有収率         | 64.38 %                  |  | 67.07 %                  |  | △ 2.69   | △ 4.0   |
| 給水原価        | 210円46 銭/m <sup>3</sup>  |  | 223円32 銭/m <sup>3</sup>  |  | △ 12円86銭 | △ 5.8   |
| 供給単価        | 190円10 銭/m <sup>3</sup>  |  | 185円38 銭/m <sup>3</sup>  |  | 4円72銭    | 2.5     |
| 料金回収率       | 90.33 %                  |  | 83.01 %                  |  | 7.3      | 8.8     |

本年度末の給水戸数は、水道事業 1 で2,729戸と減少、水道事業 2 で2,954戸と減少している。年間有収水量は、水道事業 1 で670,777m<sup>3</sup>と0.2%減少、水道事業 2 では840,718m<sup>3</sup>と3.3%増加している。有収率は水道事業 1 で76.04%と2.04ポイント減少、水道事業 2 で64.38%と2.69ポイント減少している。

水道事業 1、水道事業 2 ともに給水原価が減少している。

水道事業 1、水道事業 2 ともに料金回収率に改善がみられる。



## 2 収支と財政状況

### (1) 経営の状況

#### ①水道事業1の状況

##### 水道事業1 収益的収入及び支出

(単位：円、%)

| 項 目    | 令和6年度       | 令和5年度       | 比較増減         | 増減率     |
|--------|-------------|-------------|--------------|---------|
| 収益総額   | 147,532,172 | 150,393,976 | △ 2,861,804  | △ 1.9   |
| 営業収益   | 127,946,711 | 130,405,657 | △ 2,458,946  | △ 1.9   |
| 営業外収益  | 19,585,461  | 19,988,319  | △ 402,858    | △ 2.0   |
| 特別利益   | 0           | 0           | 0            | —       |
| 事業費総額  | 127,888,636 | 147,573,763 | △ 19,685,127 | △ 13.3  |
| 営業費用   | 117,649,561 | 135,674,287 | △ 18,024,726 | △ 13.3  |
| 営業外費用  | 10,177,308  | 11,728,609  | △ 1,551,301  | △ 13.2  |
| 特別損失   | 61,767      | 170,867     | △ 109,100    | △ 63.9  |
| 予備費    | 0           | 0           | 0            | —       |
| 当年度純損益 | 19,643,536  | 2,820,213   | 16,823,323   | △ 596.5 |
| 経常収支比率 | 115.42      | 102.03      | 13.39        | 13.1    |

営業収益は127,947千円（うち給水収益124,210千円）、営業費用は117,650千円で、19,644千円の純利益である。

当年度純利益に、前年度繰越利益剰余金を加えた令和6年度未処分利益剰余金は、485,368千円になっている。

資本的収支（税込）では、収入総額28,992千円で内訳は負担金178千円、国庫補助金3,914千円、企業債24,900千円である。支出総額は97,828千円で、内訳は建設改良費38,674千円、企業債償還金59,154千円である。不足額の68,836千円は過年度分損益勘定留保資金で補てんした。

令和6年度末の預金現金残高は、794,372千円となっている。

## ②水道事業２の状況

### 水道事業２ 収益的収入及び支出

(単位：円、%)

| 項 目    | 令和６年度       | 令和５年度       | 比較増減         | 増減率    |
|--------|-------------|-------------|--------------|--------|
| 収益総額   | 295,677,611 | 303,340,661 | △ 7,663,050  | △ 2.5  |
| 営業収益   | 162,288,823 | 152,551,112 | 9,737,711    | 6.4    |
| 営業外収益  | 133,388,788 | 150,192,715 | △ 16,803,927 | △ 11.2 |
| 特別利益   | 0           | 596,834     | △ 596,834    | 皆減     |
| 事業費総額  | 224,628,744 | 222,324,418 | 2,304,326    | 1.0    |
| 営業費用   | 209,585,721 | 190,008,803 | 19,576,918   | 10.3   |
| 営業外費用  | 14,964,301  | 32,255,342  | △ 17,291,041 | △ 53.6 |
| 特別損失   | 78,722      | 60,273      | 18,449       | 30.6   |
| 予備費    | 0           | 0           | 0            | —      |
| 当年度純損益 | 71,048,867  | 81,016,243  | △ 9,967,376  | △ 12.3 |
| 経常収支比率 | 131.68      | 136.21      | △ 4.53       | △ 3.3  |

営業収益は162,289千円（うち給水収益159,820千円）、営業費用は209,586千円であり、当年度純利益は71,049千円である。

当年度純利益に、前年度繰越利益剰余金を加えた令和６年度未処分利益剰余金は、258,159千円になっている。

資本的収支（税込）では収入総額39,024千円で、内訳は国庫補助金424千円及び企業債38,600千円である。支出総額は147,204千円で、内訳は建設改良費44,957千円、企業債償還金101,678千円、他会計借入金償還金569千円である。不足額の108,180千円は、過年度分損益勘定留保資金で補てんした。

令和６年度末の預金現金残高は、165,331千円となっている。

## (2) 未収金の状況

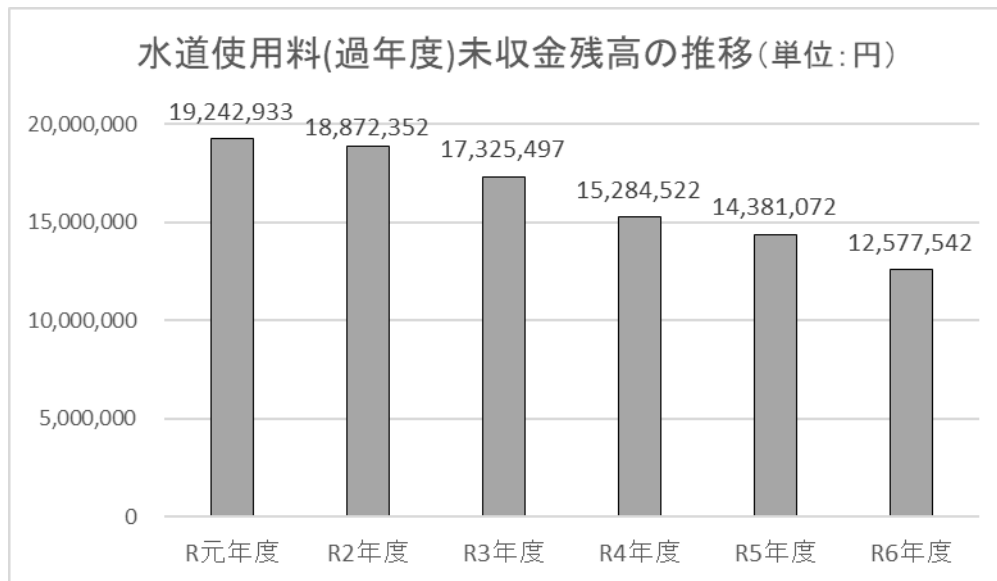
未収金は、3月末現在において、水道事業１は24,408千円（うち3月分使用料を含めた水道使用料未収分18,311千円、前年度比8.3%の減）で、水道事業２は24,725千円（うち3月分使用料を含めた水道使用料未収分は23,693千円、前年度比0.5%の増）である。

現年度分は水道事業１で減少しており、水道事業２は3月分使用料の調定額が前年同期と比べ1,282千円増加したため未収金が増加している。過年度分は水道事業１では15.7%、水道事業２では10.6%減少している。

### 未収金の状況

(単位：円、%)

| 項 目        | 令和６年度      | 令和５年度       | 比較増減          | 増減率    |
|------------|------------|-------------|---------------|--------|
| 水道事業１ 合計   | 24,407,547 | 36,507,267  | △ 12,099,720  | △ 33.1 |
| 水道使用料      | 13,684,700 | 14,478,080  | △ 793,380     | △ 5.5  |
| 水道使用料(過年度) | 4,626,647  | 5,491,487   | △ 864,840     | △ 15.7 |
| その他営業収益    | 0          | 0           | 0             | —      |
| その他        | 6,096,200  | 16,537,700  | △ 10,441,500  | △ 63.1 |
| 水道事業２ 合計   | 24,724,925 | 131,437,045 | △ 106,712,120 | △ 81.2 |
| 水道使用料      | 15,742,430 | 14,679,160  | 1,063,270     | 7.2    |
| 水道使用料(過年度) | 7,950,895  | 8,889,585   | △ 938,690     | △ 10.6 |
| その他営業収益    | 0          | 0           | 0             | —      |
| その他        | 1,031,600  | 107,868,300 | △ 106,836,700 | △ 99.0 |



### (3) 改良工事等の施行状況

建設工事は、水道事業1では久谷地区配水管布設替工事22,048千円及び対田地内配水管布設替舗装復旧工事6,366千円、水道事業2では照来テレメータ設備更新工事24,200千円及び竹田新浄水場空気圧縮機更新工事5,720千円があり、いずれも工期内に完了している。

### (4) その他の予算事項

地方公営企業法施行令第17条に規定する予算に係る事項の執行状況は次のとおりである。

#### ア 債務負担行為

債務負担行為を行っていない。

#### イ 企業債

企業債は、新規に水道事業1で24,900千円、水道事業2で38,600千円を発行し、未償還残高は水道事業1で1,332,237千円、水道事業2は1,023,461千円の合計2,355,698千円である。

起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算に定められた範囲内で執行されている。

#### ウ 一時借入金

一時借入金の限度額は、水道事業1は20,000千円、水道事業2は60,000千円と定められているが、執行されていない。

#### エ 予定支出の各項の経費の金額の流用

流用することができる場合は、「営業費用及び営業外費用の各項間」と定められており、他の経費との流用の事実は認められなかった。

#### オ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

流用禁止の経費は、職員給与費であるが、流用はなく議決を受けた予算の範囲内で執行されている。

カ 他会計からの補助金及び負担金

一般会計からの補助金は、次のとおり執行されている。

・水道事業1 予算額 1千円 決算額 0千円

・水道事業2 予算額 86,592千円 決算額 86,592千円

キ たな卸資産購入限度額

当年度のたな卸資産購入額は水道事業1で3,721千円、水道事業2で0円である。予算に定められている購入限度額は水道事業1で4,000千円、水道事業2は3,000千円であり、その範囲内で執行されている。

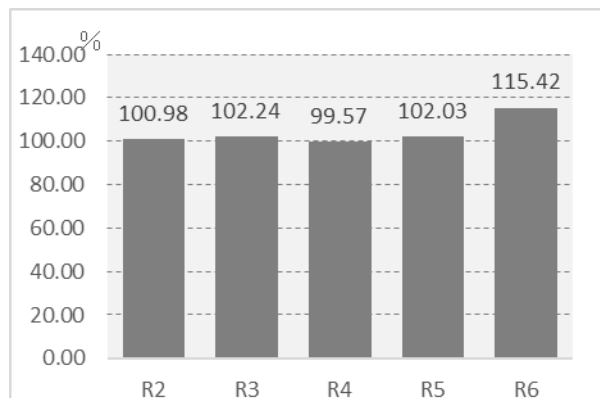
### 3 経営指標の推移

#### (1) 水道事業 1

##### ■ 経常収支比率 (%)

$$= \frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$$

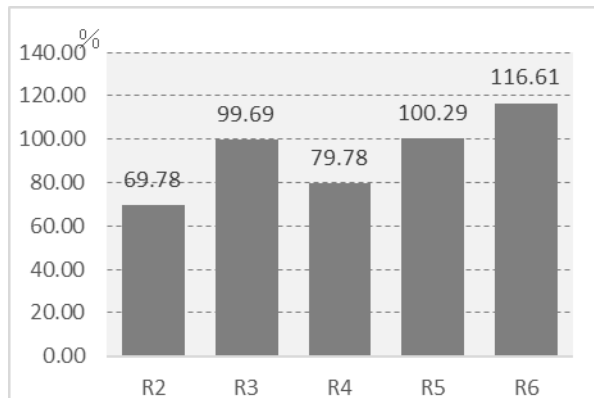
※経常的な収支を示した指標。100%を超えて比率が高いほど良好といえる。



##### ■ 料金回収率 (%)

$$= \frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$$

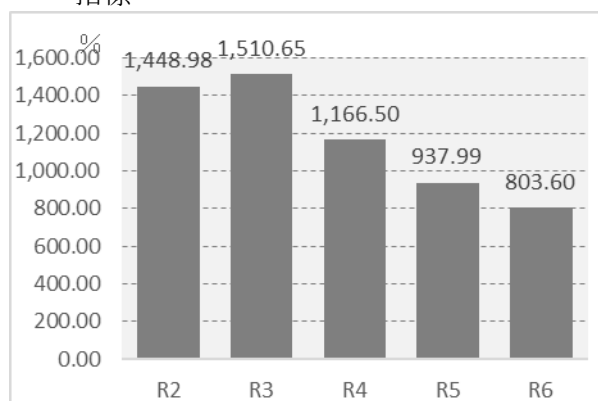
※料金改定を目安となる。100%以上が好ましい。



##### ■ 流動比率 (%)

$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

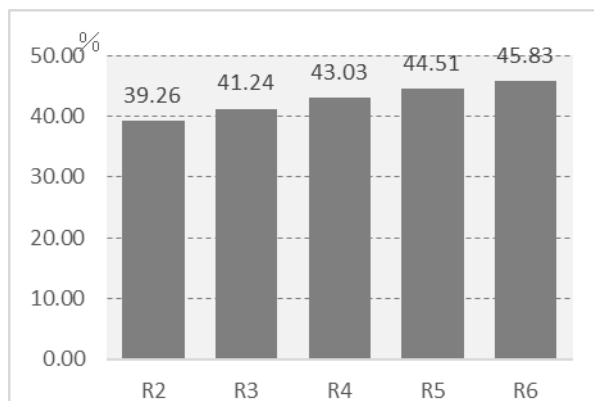
※短期債務に対する支払い能力を示した指標



##### ■ 有形固定資産減価償却率 (%)

$$= \frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却資産の帳簿原価}} \times 100$$

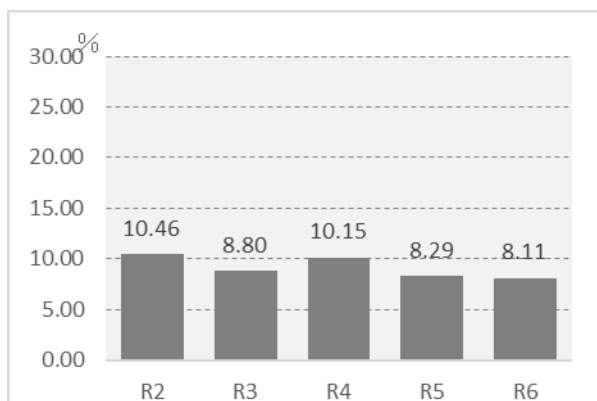
※償却資産における償却済の割合を示す。



##### ■ 企業債利息対給水収益比率 (%)

$$= \frac{\text{企業債利息}}{\text{給水収益}} \times 100$$

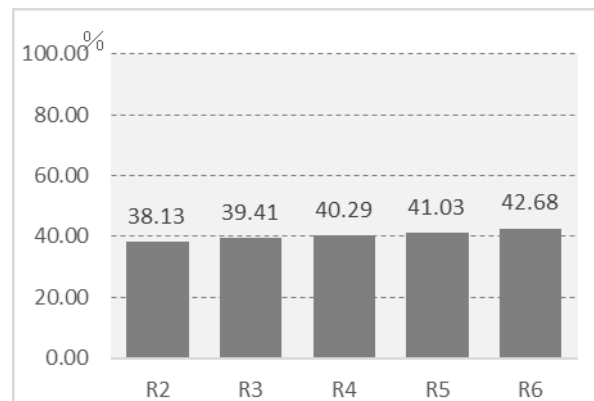
※効率化を図る費用項目を把握することができる。



##### ■ 自己資本構成比率 (%)

$$= \frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$$

※財政状態の長期的な安全性を見る指標。  
自己資本の造成度により資本の安定度をみる。

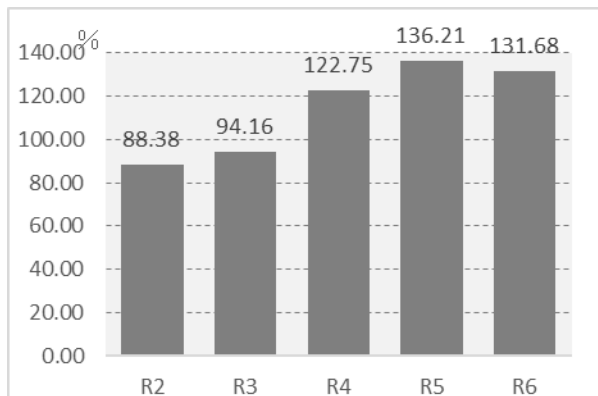


## (2) 水道事業 2

### ■ 経常収支比率 (%)

$$= \frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$$

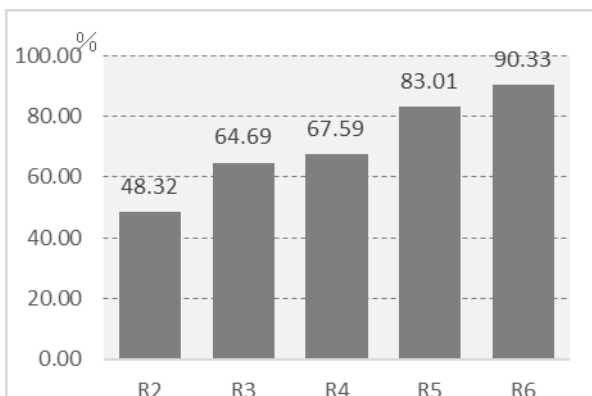
※経常的な収支を示した指標。100%を超えて比率が高いほど良好といえる。



### ■ 料金回収率 (%)

$$= \frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$$

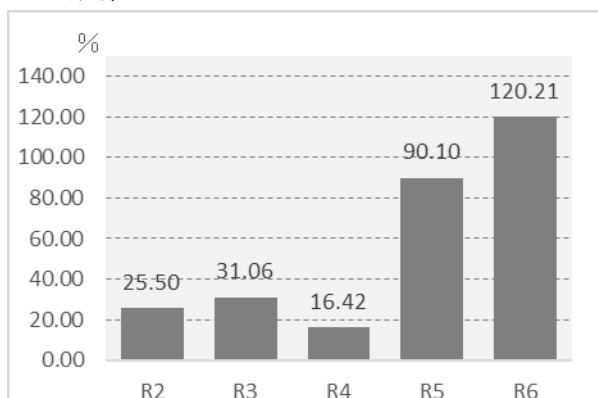
※料金改定の目安となる。100%以上が好ましい。



### ■ 流動比率 (%)

$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

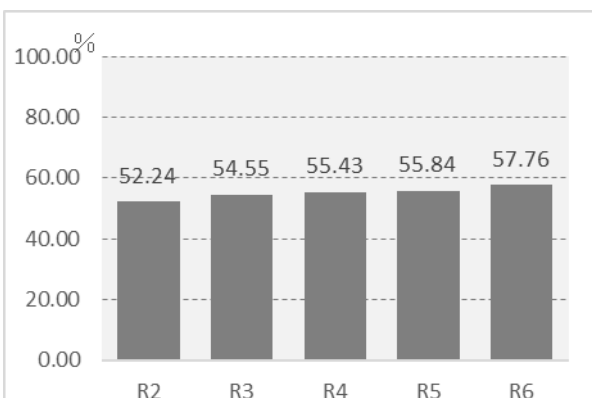
※短期債務に対する支払い能力を示した指標



### ■ 有形固定資産減価償却率 (%)

$$= \frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却資産の帳簿原価}} \times 100$$

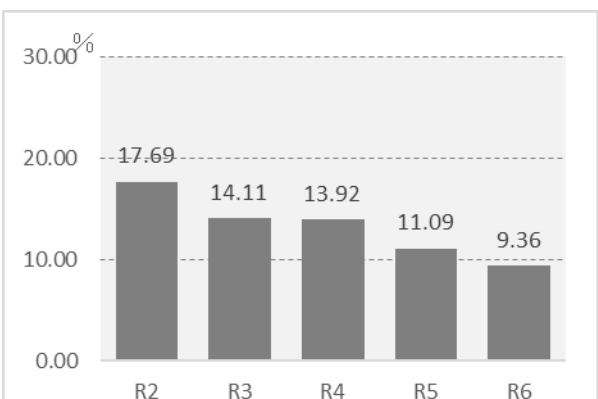
※償却資産における償却済の割合を示す。



### ■ 企業債利息対給水収益比率 (%)

$$= \frac{\text{企業債利息}}{\text{給水収益}} \times 100$$

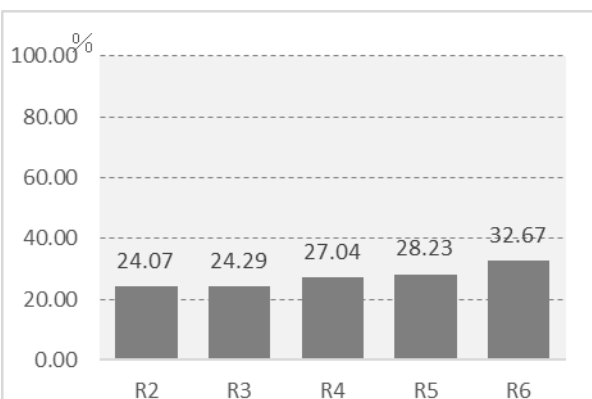
※効率化を図る費用項目を把握することができる。



### ■ 自己資本構成比率 (%)

$$= \frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$$

※財政状態の長期的な安全性を見る指標。  
自己資本の造成度により資本の安定度をみる。



### Ⅲ 新温泉町下水道事業

#### 1 事業の概要

快適な生活環境と公共用水域の水質の保全のため、23処理区において計画的かつ効率的な施設整備と適切な維持管理に努めている。

接続率及び処理水量等の推移

| 項 目        | 令和6年度                   | 令和5年度                   | 比較増減     | 増減率(%) |
|------------|-------------------------|-------------------------|----------|--------|
| 処理区域内人口    | 12,019人                 | 12,303人                 | △ 284    | △ 2.3  |
| 接続人口       | 10,494人                 | 10,663人                 | △ 169    | △ 1.6  |
| 接続率(戸数で計算) | 82.6%                   | 82.2%                   | 0.4      | 0.5    |
| 年間処理水量     | 1,405,106m <sup>3</sup> | 1,439,420m <sup>3</sup> | △ 34,314 | △ 2.4  |
| 有収水量       | 1,213,619m <sup>3</sup> | 1,258,192m <sup>3</sup> | △ 44,573 | △ 3.5  |
| 有収率        | 86.4%                   | 87.4%                   | △ 1.0    | △ 1.1  |

本年度末の接続戸数は4,806戸で、接続率は82.6%と向上しているが、接続人口は前年度より169人、1.6%減少している。接続率を事業別に見ると、100～66.0%と開きが大きく、特に温泉中央(特定環境保全公共下水道事業)は73.6%と低いことから加入促進が大きな課題となっている。

年間処理水量は1,405,106m<sup>3</sup>で、前年度に比べて34,314m<sup>3</sup>、2.4%減少している。

#### 2 収支と財政状況

##### (1) 経営の状況

収益的収入及び支出

(単位：円、%)

| 項 目    | 令和6年度       | 令和5年度       | 比較増減         | 増減率   |
|--------|-------------|-------------|--------------|-------|
| 収益総額   | 866,968,390 | 885,694,289 | △ 18,725,899 | △ 2.1 |
| 営業収益   | 233,022,051 | 237,559,711 | △ 4,537,660  | △ 1.9 |
| 営業外収益  | 633,946,339 | 648,134,578 | △ 14,188,239 | △ 2.2 |
| 特別利益   | 0           | 0           | 0            | －     |
| 事業費総額  | 715,157,958 | 730,840,975 | △ 15,683,017 | △ 2.1 |
| 営業費用   | 653,309,945 | 663,659,595 | △ 10,349,650 | △ 1.6 |
| 営業外費用  | 60,543,829  | 67,061,075  | △ 6,517,246  | △ 9.7 |
| 特別損失   | 1,304,184   | 120,305     | 1,183,879    | 984.1 |
| 当年度純損益 | 151,810,432 | 154,853,314 | △ 3,042,882  | △ 2.0 |
| 経常収支比率 | 121.45      | 121.21      | 0.24         | 0.2   |

当年度は、地方公営企業法適用9年目である。

総収益は、866,968千円で、これに対する事業費総額は715,158千円となり、151,810千円の黒字となっている。

営業収益233,022千円の主なものは下水道使用料229,223千円で、営業費用653,310千円の主なものは処理場費149,111千円と減価償却費442,884千円である。営業損益は420,288千円の損失となっている。

営業外収益は、一般会計補助金400,353千円を受け入れたことと長期前受金戻

入224,009千円等により633,946千円となり、営業外費用は、企業債利息等で60,544千円である。営業外損益は573,402千円の利益となっている。

特別利益は0円、特別損失は1,304千円である。

資本的収支（税込）についてみると、収入総額は企業債収入、一般会計出資金及び国庫・県補助金等の合計307,477千円で、支出総額は建設改良費108,145千円と企業債元利償還金473,426千円の合計581,571千円で、収支不足額294,094千円（収入総額から翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する20,000千円除く）は過年度分損益勘定留保資金及び当年度分損益勘定留保資金で補てんしている。

本年度末の預金現金残高は、1,137,573千円となっている。

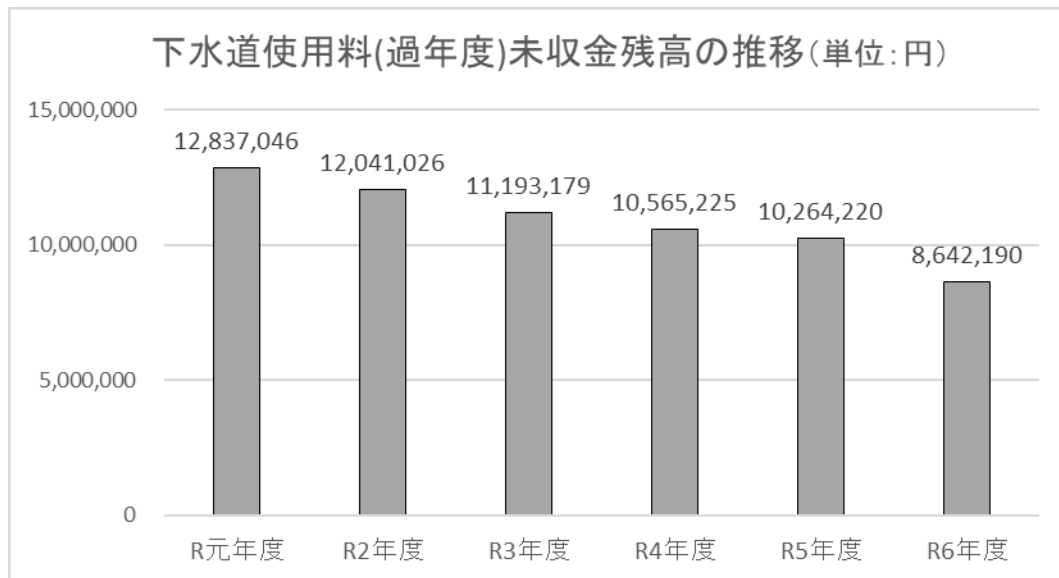
## (2) 未収金の状況

### 未収金の状況

(単位：円、%)

| 項 目         | 令和 6 年度    | 令和 5 年度    | 比較増減        | 増減率    |
|-------------|------------|------------|-------------|--------|
| 下水道事業 合計    | 46,054,372 | 54,202,678 | △ 8,148,306 | △ 15.0 |
| 下水道使用料      | 23,667,930 | 25,253,670 | △ 1,585,740 | △ 6.3  |
| 下水道使用料(過年度) | 8,642,190  | 10,264,220 | △ 1,622,030 | △ 15.8 |
| その他営業収益     | 4,373,012  | 3,734,612  | 638,400     | 17.1   |
| その他         | 9,371,240  | 14,950,176 | △ 5,578,936 | △ 37.3 |

未収金は、46,054千円となっている。このうち3月分下水道使用料を含む下水道使用料未収分は、32,310千円（前年度比9.0%の減）で、過年度分未収金は15.8%減少している。



## (3) 改良工事等の施行状況

工事は浜坂浄化センター汚泥脱水機設備他改築工事81,181千円及び浜坂駅港湾線街路事業関連公共ます移設工事(その2)1,059千円を実施し、年度内に完了している。

#### (4) その他の予算事項

地方公営企業法施行令第17条に規定する予算に係る事項の執行状況は次のとおりである。

##### ア 債務負担行為

債務負担行為は、令和7年度分として、温泉中央浄化センター監視制御設備更新工事に30,000千円を限度額として定めている。

##### イ 企業債

新規に141,400千円を借入れ、未償還残高は2,731,387千円である。

記載の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算に定められた範囲内で執行されている。

##### ウ 一時借入金

一時借入金の限度額は、530,000千円と定められているが、執行されていない。

##### エ 予定支出の各項の経費の金額の流用

流用することができる場合は、「営業費用及び営業外費用の各項間」と定められており、他の経費との流用の事実は認められなかった。

##### オ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

流用禁止の経費は、職員給与費であるが、流用はなく議決を受けた予算の範囲内で執行されている。

##### カ 他会計からの補助金及び負担金

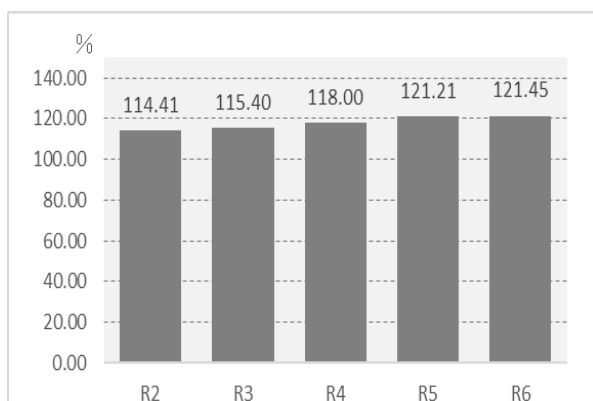
一般会計からの補助金は、予算額400,353千円に対し、決算額400,353千円である。

### 3 経営指標の推移

#### ■経常収支比率（％）

$$= \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

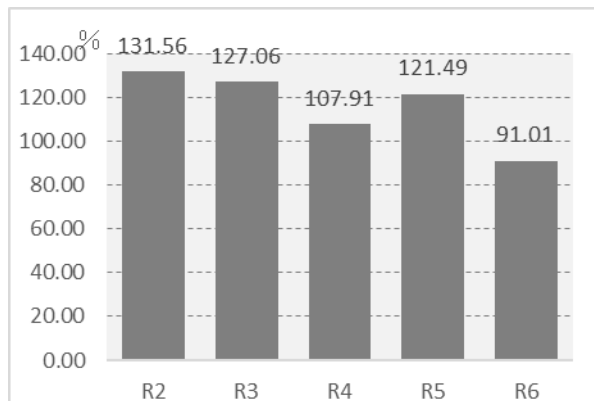
※経常的な収支を示した指標。100％を超えて比率が高いほど良好といえる。



#### ■経費回収率（％）

$$= \frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価}} \times 100$$

※料金改定の目安となる。100％以上が好ましい。

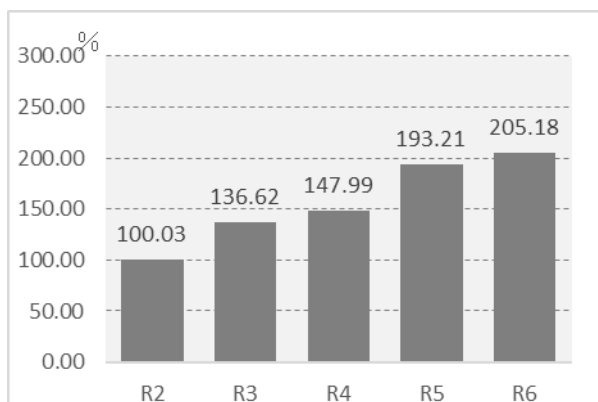


※令和6年度決算より、コミュニティ・プラント事業の汚水処理費相当額を算入し、全事業合算での算出となっている。

■流動比率（％）

$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

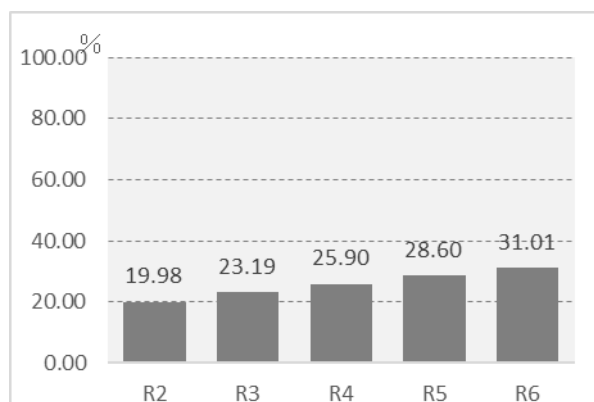
※短期債務に対する支払い能力を示した指標。



■有形固定資産減価償却率（％）

$$= \frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却資産の帳簿原価}} \times 100$$

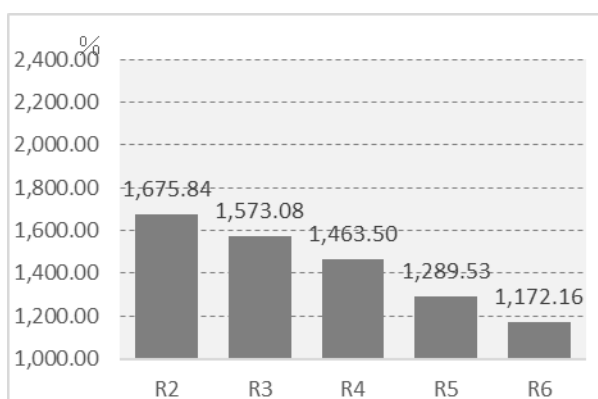
※償却の進み具合で将来の設備投資計画を立てる。



■企業債残高対営業収益比率（％）

$$= \frac{\text{企業債残高}}{\text{営業収益}} \times 100$$

※効率化を図る費用項目を把握することができる。



## IV 新温泉町公立浜坂病院事業

### 1 事業の概要

病院事業は、地域医療を支えるという重要な役割を担っており、令和6年4月より整形外科の午後診(火・木曜日)を開始し、医療提供体制の充実を図るとともに、訪問看護ステーションを開設して、地域包括ケアシステムの強化にも努めている。

また、施設整備や医療機器の更新も計画的に進めており、令和6年度は病院南棟の屋上防水シートの改修や多項目自動血球分析装置の更新など、医療の質の維持・向上を図っている。

診療体制は、常勤医師6人(院長、総合診療科部長2人、総合診療科の県養成医2人、整形外科部長)に加えて、関係医療機関からの派遣された非常勤医師等(整形外科、耳鼻咽喉科、小児発達外来、神経内科)により診療体制を確保しているものの、小児科(小児発達外来)については、体制維持が困難なため令和7年3月末をもって休診としている。

今後も経営の改善、安定化を進めるとともに、病院の基本理念を踏まえ「治す医療」から「支える医療」としての訪問診療、訪問看護、訪問リハビリに取り組み、病院経営強化プランの実行と併せて、地域とともに共生し、地域に信頼される持続可能な病院を築きあげるよう取り組みを進めている。

介護老人保健施設事業においては、「強化型老健」施設として、医師・看護師・理学療法士など多職種連携のもと、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら生活機能の維持、向上を目指した支援を行っている。

居宅介護支援事業においては、利用者の希望をもとに利用者の有する機能に応じたケアプランの作成に努め、各種サービス提供事業者と連携を図り、日常生活の維持ができるよう支援を行っている。

訪問看護ステーション事業においては、「公立浜坂病院経営強化プラン」に基づき、これまで病院事業で提供していた「みなし訪問看護」を格上げし、令和6年度より新たに「訪問看護ステーション」として事業運営を開始している。

自宅で療養を行う利用者が安心して生活を送ることができるよう、健康管理や医療ケア、生活サポートなど、快適な在宅療養の支援を行っている。

## (1) 施設別の利用状況

(単位：人、%、件)

|              |              | 令和6年度  | 令和5年度  | 比較増減  | 増減率    |
|--------------|--------------|--------|--------|-------|--------|
| 病院事業         |              | 33,631 | 33,737 | △ 106 | △ 0.3  |
|              | 外来患者数        | 20,849 | 20,536 | 313   | 1.5    |
|              | 総合診療科        | 10,364 | 10,197 | 167   | 1.6    |
|              | 小児科          | 265    | 247    | 18    | 7.3    |
|              | 泌尿器科         | 0      | 77     | △ 77  | 皆減     |
|              | 整形外科         | 5,452  | 5,527  | △ 75  | △ 1.4  |
|              | 耳鼻咽喉科        | 4,074  | 3,738  | 336   | 9.0    |
|              | リハビリテーション科   | 694    | 750    | △ 56  | △ 7.5  |
|              | 入院患者数        | 12,782 | 13,201 | △ 419 | △ 3.2  |
|              | 総合診療科        | 12,691 | 13,171 | △ 480 | △ 3.6  |
|              | 整形外科         | 91     | 30     | 61    | 203.3  |
| 介護老人保健施設事業   |              | 27,357 | 26,612 | 745   | 2.8    |
|              | 入所者数         | 23,206 | 22,634 | 572   | 2.5    |
|              | 通所者数         | 4,151  | 3,978  | 173   | 4.3    |
| 居宅介護支援事業     |              |        |        |       |        |
|              | 居宅サービス計画策定件数 | 816    | 853    | △ 37  | △ 4.3  |
|              | 介護予防件数       | 62     | 96     | △ 34  | △ 35.4 |
| 訪問看護ステーション事業 |              |        |        |       |        |
|              | 訪問件数         | 1,606  | 0      | 1,606 | 皆増     |

## ① 病院事業

入院・外来患者合わせて33,631人で、前年度に比べて106人（0.3%）の減少となっている。その内訳は、外来患者数は20,849人（1日平均85.8人）で、前年度に比べて313人（1.5%）の増加となっている。入院患者数は、12,782人（1日平均35.0人）で前年度に比べ419人（3.2%）の減少となっており、病床利用率は、71.5%で、前年度に比べ2.1ポイントの減少となっている。

診療科別の状況（入院・外来の合計）をみると、総合診療科が23,055人と前年度比313人（1.3%）減少し、全体の68.6%を占めている。整形外科は5,543人で前年度比14人（0.3%）減少したものの入院患者数は91人と、前年度に比べて61人（203.3%）増加している。

## ② 介護老人保健施設事業

入所・通所者を合わせて27,357人で、前年度に比べて745人（2.8%）の増加となっている。その内訳は、入所者は23,206人（稼働率79.5%）で、前年度に比べて2.5%の増加、通所者は4,151人（稼働率86.8%）で、前年度に比べて4.3%の増加となっている。

## ③ 居宅介護支援事業

居宅サービス計画策定件数は816件で、前年度に比べ37件（4.3%）の減少、介護予防件数は62件で、前年度に比べ34件（35.4%）の減少となっている。

## ④ 訪問看護ステーション事業

訪問件数は1,606件（一日平均6.5人）となっている。

## 2 収支と財政状況

### (1) 経営の状況

(単位：円)

| 項 目    |                            | 令和 6 年度         | 令和 5 年度         | 比較増減         |
|--------|----------------------------|-----------------|-----------------|--------------|
| 事業収益   | 病院事業収益                     | 868,918,172     | 917,813,307     | △ 48,895,135 |
|        | 医業収益                       | 615,095,049     | 639,746,361     | △ 24,651,312 |
|        | 医業外収益                      | 169,268,463     | 196,958,243     | △ 27,689,780 |
|        | 特別利益                       | 84,554,660      | 81,108,703      | 3,445,957    |
|        | 附帯事業収益                     | 492,261,893     | 474,358,518     | 17,903,375   |
|        | 介護老人保健施設収益                 | 446,547,219     | 455,440,618     | △ 8,893,399  |
|        | 事業収益                       | 357,314,025     | 345,119,265     | 12,194,760   |
|        | 事業外収益                      | 19,233,194      | 21,088,346      | △ 1,855,152  |
|        | 特別利益                       | 70,000,000      | 89,233,007      | △ 19,233,007 |
|        | 居宅介護支援事業収益                 | 18,649,161      | 18,917,900      | △ 268,739    |
|        | 事業収益                       | 11,439,840      | 11,917,900      | △ 478,060    |
|        | 事業外収益                      | 7,209,321       | 7,000,000       | 209,321      |
|        | 訪問看護ステーション収益               | 27,065,513      | 0               | 皆増           |
|        | 事業収益                       | 16,834,659      | 0               | 皆増           |
|        | 事業外収益                      | 10,032,549      | 0               | 皆増           |
|        | 特別利益                       | 198,305         | 0               | 皆増           |
|        | 計                          | 1,361,180,065   | 1,392,171,825   | △ 30,991,760 |
| 事業費用   | 病院事業費用                     | 900,734,953     | 948,897,985     | △ 48,163,032 |
|        | 医業費用                       | 876,848,629     | 924,864,682     | △ 48,016,053 |
|        | 医業外費用                      | 22,043,106      | 20,221,066      | 1,822,040    |
|        | 特別損失                       | 1,843,218       | 3,812,237       | △ 1,969,019  |
|        | 附帯事業費用                     | 567,274,825     | 462,580,827     | 104,693,998  |
|        | 介護老人保健施設費用                 | 501,925,760     | 445,203,957     | 56,721,803   |
|        | 事業費用                       | 474,739,053     | 429,155,388     | 45,583,665   |
|        | 事業外費用                      | 26,877,124      | 16,003,853      | 10,873,271   |
|        | 特別損失                       | 309,583         | 44,716          | 264,867      |
|        | 居宅介護支援事業費用                 | 18,663,048      | 17,376,870      | 1,286,178    |
|        | 事業費用                       | 18,557,649      | 17,278,928      | 1,278,721    |
|        | 事業外費用                      | 105,399         | 97,942          | 7,457        |
|        | 訪問看護ステーション費用               | 46,686,017      | 0               | 皆増           |
|        | 事業費用                       | 46,451,840      | 0               | 皆増           |
|        | 事業外費用                      | 234,177         | 0               | 皆増           |
|        | 計                          | 1,468,009,778   | 1,411,478,812   | 56,530,966   |
| 当年度純損益 | 病院事業                       | △ 31,816,781    | △ 31,084,678    | △ 732,103    |
|        | 附帯事業                       | △ 75,012,932    | 11,777,691      | △ 86,790,623 |
|        | 介護老人保健施設事業                 | △ 55,378,541    | 10,236,661      | △ 65,615,202 |
|        | 居宅介護支援事業                   | △ 13,887        | 1,541,030       | △ 1,554,917  |
|        | 訪問看護ステーション事業               | △ 19,620,504    | 0               | △ 19,620,504 |
|        | 計                          | △ 106,829,713   | △ 19,306,987    | △ 87,522,726 |
|        | 前年度繰越利益剰余金<br>(前年度繰越欠損金)   | △ 3,905,398,258 | △ 3,886,091,271 | 19,306,987   |
|        | 当年度未処分利益剰余金<br>(当年度未処理欠損金) | △ 4,012,227,971 | △ 3,905,398,258 | 106,829,713  |

病院事業４事業の収益総額は、1,361,180千円と、前年度に比べ30,992千円（2.2％）の減収となっている。これは、病院事業収益が前年度に比べ48,895千円（5.3％）の減収、附帯事業収益が17,903千円（3.8％）の増収になったことによる。

また、一般会計からの特別利益（病院経営改善補助金）は、病院事業では80,000千円で前年度に比べ3,200千円を増額、介護老人保健施設事業では70,000千円で前年度に比べ3,800千円を増額している。

一方、費用総額は、1,468,010千円で、病院４事業の純損益は、106,830千円の赤字決算となっている。

施設別の詳細は次のとおりである。

① 病院事業

純損益は、31,817千円の赤字で、当年度未処理欠損金は、2,980,358千円となっている。

② 介護老人保健施設事業

純損益は、55,379千円の赤字で、当年度未処理欠損金は、1,045,618千円となっている。

③ 居宅介護支援事業

純損益は、14千円の赤字で、当年度未処理利益剰余金は、33,368千円となっている。

④ 訪問看護ステーション事業

純損益は、19,621千円の赤字で、当年度未処理欠損金は、19,621千円となっている。

（単位：円）

| 項 目       | 令和 6 年度     | 令和 5 年度     | 比較増減         |
|-----------|-------------|-------------|--------------|
| 資本的収入     | 358,361,892 | 195,655,500 | 162,706,392  |
| 企業債       | 81,300,000  | 4,200,000   | 77,100,000   |
| 一般会計出資金   | 154,461,892 | 73,055,500  | 81,406,392   |
| 一般会計長期借入金 | 122,600,000 | 118,400,000 | 4,200,000    |
| 資本的支出     | 368,303,390 | 195,596,950 | 172,706,440  |
| 建設改良費     | 162,571,200 | 8,420,500   | 154,150,700  |
| 企業債償還金    | 90,312,190  | 85,346,450  | 4,965,740    |
| 他会計借入金償還金 | 104,460,000 | 99,910,000  | 4,550,000    |
| 投資        | 10,960,000  | 1,920,000   | 9,040,000    |
| 収支差引額     | △ 9,941,498 | 58,550      | △ 10,000,048 |

資本的収支（税込）についてみると、収入総額は、358,362千円でその内訳は、企業債81,300千円、一般会計出資金154,462千円、一般会計長期借入金122,600千円となっており、一般会計出資金については、病院建設改良費出資金16,600千円、病院企業債償還元金出資金17,067千円、介護老人保健施設建設改良費出資金64,671千円、介護老人保健施設企業債償還元金出資金56,124千円を繰り入

れている。

一方、支出総額は、368,303千円でその内訳は、病院建設改良費33,300千円、介護老人保健施設建設改良費129,271千円、病院企業債元金償還金34,188千円、介護老人保健施設企業債償還金56,124千円、病院他会計借入金償還金104,460千円、投資10,960千円で、収支差引不足額9,941千円は資本剰余金で補填している。

## (2) 企業債、他会計借入金の状況

企業債及び他会計からの借入金の現在高は、1,008,102千円で、その内訳は、次のとおりである。

記載の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算に定められた範囲内で執行されている。

(単位：千円)

| 区 分            | 令和5年度末<br>現在高 | 令和6年度中  |         | 令和6年度末<br>現在高 |
|----------------|---------------|---------|---------|---------------|
|                |               | 借入額     | 償還額     |               |
| 病院             | 749,704       | 139,300 | 138,648 | 750,356       |
| 企業債（借入資本金分）    | 158,864       | 16,700  | 34,188  | 141,376       |
| 他会計借入金（借入資本金分） | 590,840       | 122,600 | 104,460 | 608,980       |
| 介護老人保健施設       | 249,269       | 64,600  | 56,123  | 257,746       |
| 企業債（借入資本金分）    | 249,269       | 64,600  | 56,123  | 257,746       |
| 計              | 998,973       | 203,900 | 194,771 | 1,008,102     |

## (3) 工事等の施行状況

公立浜坂病院南棟屋上(医局側)防水シート改修工事6,849千円、医師住宅屋根改修工事13,967千円及び介護老人保健施設ささゆり空調設備改修工事125,641千円を実施し、年度内に完了している。

また、委託契約は、公立浜坂病院南棟屋上(医局側)防水シート改修工事設計監理業務委託363千円、医師住宅屋根改修工事設計監理業務委託825千円及び介護老人保健施設ささゆり空調設備改修工事監理業務委託3,630千円を契約している。

(4) 未収金の状況

未収金は176,892千円で、その施設ごとの内訳は次のとおりである。

(単位：千円)

| 未収金の区別       | 令和6年度   | 令和5年度   | 比較増減    | 増減率    |
|--------------|---------|---------|---------|--------|
| 病院事業         | 117,426 | 112,505 | 4,921   | 4.4    |
| 入院・外来収益      | 89,340  | 84,995  | 4,345   | 5.1    |
| 入院収益         | 64,905  | 61,737  | 3,168   | 5.1    |
| 外来収益         | 24,435  | 23,258  | 1,177   | 5.1    |
| その他の医業収益     | 8,162   | 6,797   | 1,365   | 20.1   |
| 室料差額収益       | 717     | 467     | 250     | 53.5   |
| 医療相談収益       | 292     | 235     | 57      | 24.3   |
| 公衆衛生活動収益     | 27      | 70      | △ 43    | △ 61.4 |
| その他医業収益      | 7,126   | 6,025   | 1,101   | 18.3   |
| 医業外収益        | 24,497  | 25,441  | △ 944   | △ 3.7  |
| その他医業外収益     | 24,497  | 25,441  | △ 944   | △ 3.7  |
| 破産更正債権等      | △ 4,402 | △ 4,430 | 28      | △ 0.6  |
| 貸倒懸念債権       | △ 171   | △ 298   | 127     | △ 42.6 |
| 介護老人保健施設事業   | 54,911  | 51,431  | 3,480   | 6.8    |
| 事業未収金        | 55,500  | 49,613  | 5,887   | 11.9   |
| その他未収金       | 0       | 2,407   | △ 2,407 | 皆減     |
| 破産更正債権等      | △ 589   | △ 589   | 0       | 0.0    |
| 居宅介護支援事業     | 1,787   | 1,900   | △ 113   | △ 5.9  |
| 事業未収金        | 1,787   | 1,900   | △ 113   | △ 5.9  |
| 訪問看護ステーション事業 | 2,768   | 0       | 2,768   | 皆増     |
| 事業未収金        | 2,768   | 0       | 2,768   | 皆増     |

※過年度未収金含む

- ① 病院事業 117,426千円
- ② 介護老人保健施設事業 54,911千円
- ③ 居宅介護支援事業 1,787千円
- ④ 訪問看護ステーション事業 2,768千円

なお、未収金の主なものは、病院事業分では2～3月分の診療報酬であり、介護老人保健施設事業分、居宅介護支援事業分及び訪問看護ステーション事業分は2～3月分の介護報酬となっている。

また、個人未収金については、次のとおりである。

|                 |          |          |
|-----------------|----------|----------|
| (ア) 病院事業分       | 令和6年3月以前 | 令和6年4月以降 |
| 入院収益未収金         | 4,287千円  | 2,200千円  |
| 外来収益未収金         | 446千円    | 159千円    |
| 室料差額未収金         | 99千円     | 618千円    |
| 計               | 4,832千円  | 2,977千円  |
| うち破産更生債権等       | 4,402千円  | 0千円      |
| うち貸倒懸念債権        | 171千円    | 0千円      |
| (イ) 介護老人保健施設事業分 | 令和6年3月以前 | 令和6年4月以降 |
| 未収金             | 755千円    | 8,305千円  |
| うち破産更生債権等       | 589千円    | 0千円      |

|                   |          |          |
|-------------------|----------|----------|
| (ウ) 訪問看護ステーション事業分 | 令和6年3月以前 | 令和6年4月以降 |
| 未収金               | 0千円      | 162千円    |

(5) その他の予算事項

地方公営企業法施行令第17条に規定する予算に係る事項の執行状況は次のとおりである。

ア 債務負担行為

債務負担行為を行っていない。

イ 一時借入金

一時借入金の限度額は、400,000千円と定められており、借入金はなかった。

ウ 予定支出の各項の経費の金額の流用

流用することができる場合は、「医業費用、医業外費用の項間」と定められており、他の経費との流用の事実は認められなかった。

エ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

流用禁止の経費は、職員給与費、交際費であるが、流用はなく議決を受けた予算の範囲内で執行されている。

オ 他会計からの補助金及び負担金

一般会計からの補助金及び負担金は、次のとおり執行されている。

|                |     |           |     |           |
|----------------|-----|-----------|-----|-----------|
| ・病院事業分         | 予算額 | 276,053千円 | 決算額 | 276,053千円 |
| ・介護老人保健施設事業分   | 予算額 | 88,286千円  | 決算額 | 88,286千円  |
| ・居宅介護支援事業分     | 予算額 | 7,200千円   | 決算額 | 7,200千円   |
| ・訪問看護ステーション事業分 | 予算額 | 10,000千円  | 決算額 | 10,000千円  |

カ たな卸資産購入限度額

当年度のたな卸資産購入額は75,434千円で、予算に定められた購入限度額110,696千円の範囲内で執行されている。

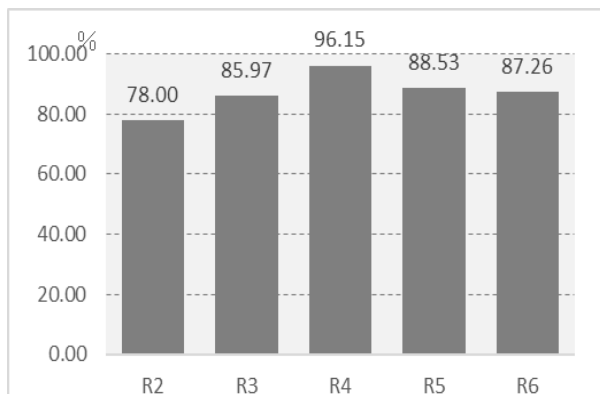
### 3 経営指標の推移

#### (1) 病院事業

##### ■経常収支比率 (%)

$$= \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

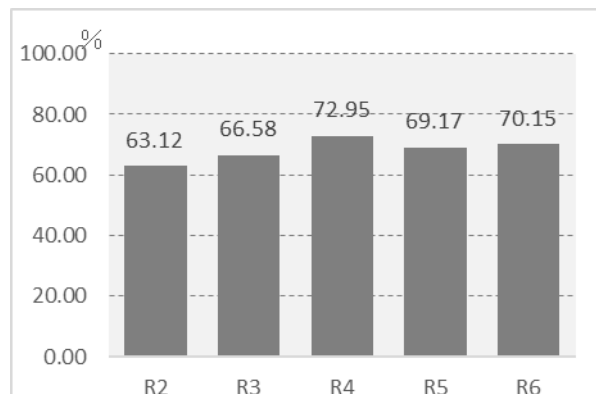
※経常的な収支を示した指標。100%を超えて比率が高いほど良好といえる。



##### ■医業収支比率 (%)

$$= \frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$$

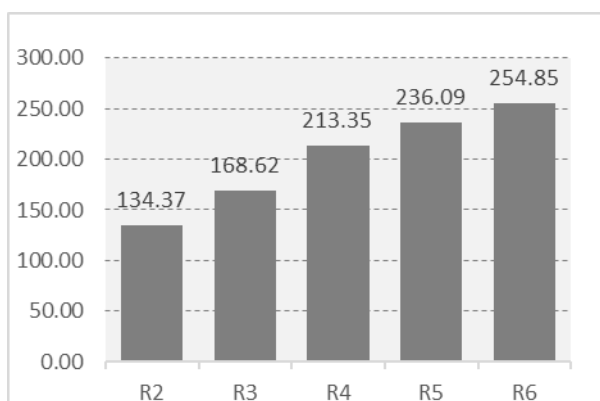
※主たる事業活動による収支を示した指標



##### ■流動比率 (%)

$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

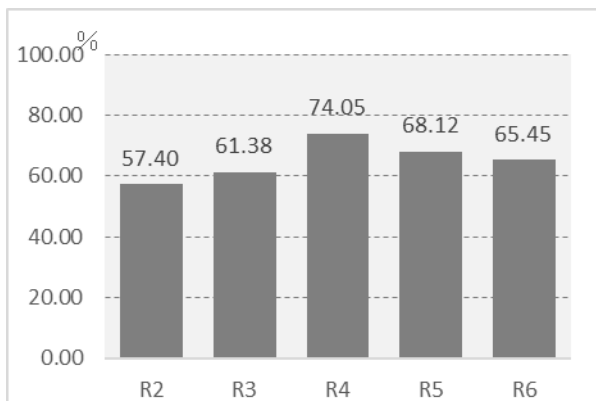
※短期債務に対する支払い能力を示した指標



##### ■実質収益対経常費用比率 (%)

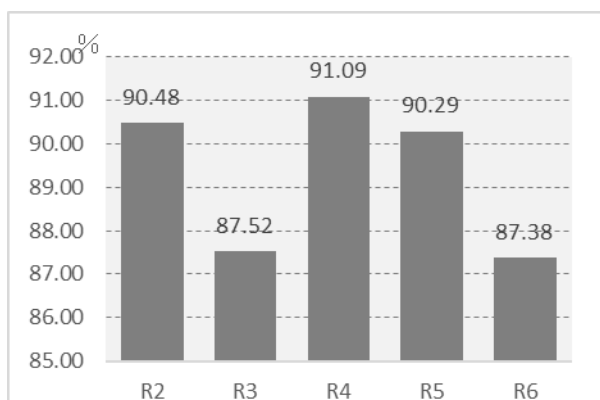
$$= \frac{\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}}{\text{経常費用}} \times 100$$

※他会計繰入金を引いた実質収益による収支を示した指標



##### ■職員給与費比率 (%)

$$= \frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$$

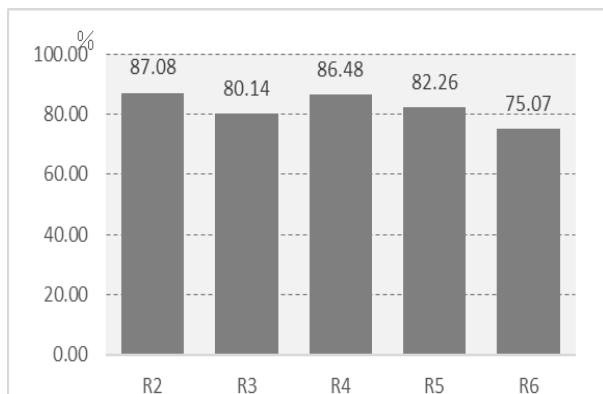


## (2) 介護老人保健施設事業

### ■経常収支比率 (%)

$$= \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

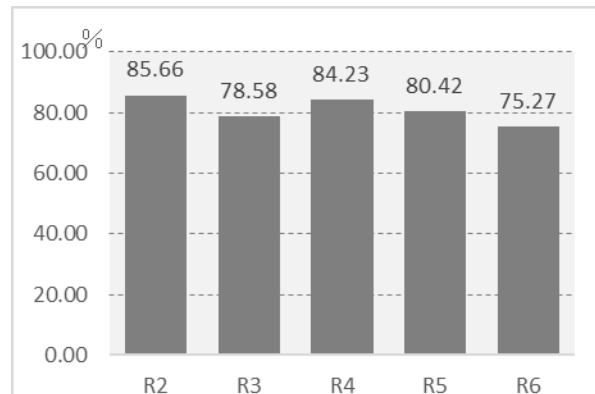
※経常的な収支を示した指標。100%を超えて比率が高いほど良好といえる。



### ■事業収支比率 (%)

$$= \frac{\text{事業収益}}{\text{事業費用}} \times 100$$

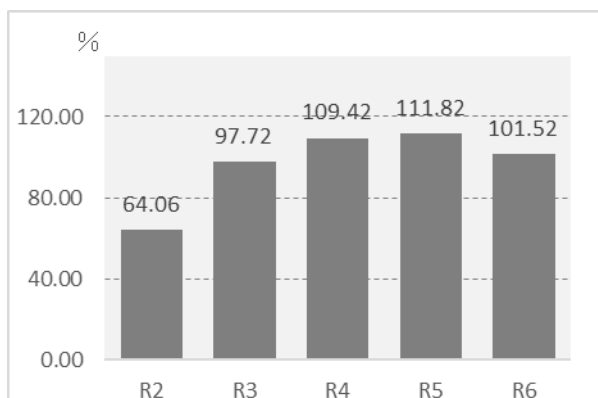
※主たる事業活動による収支を示した指標



### ■流動比率 (%)

$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

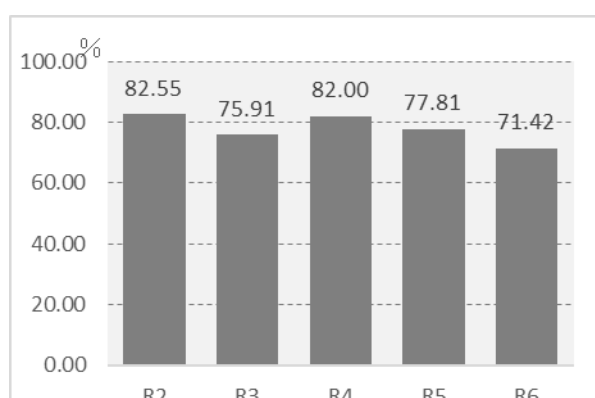
※短期債務に対する支払い能力を示した指標。



### ■実質収益対経常費用比率 (%)

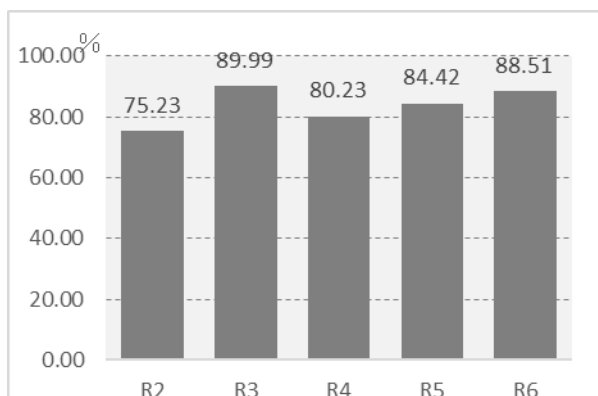
$$= \frac{\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}}{\text{経常費用}} \times 100$$

※他会計繰入金を引いた実質収益による収支を示した指標。



### ■職員給与費比率 (%)

$$= \frac{\text{給与費}}{\text{事業収益}} \times 100$$

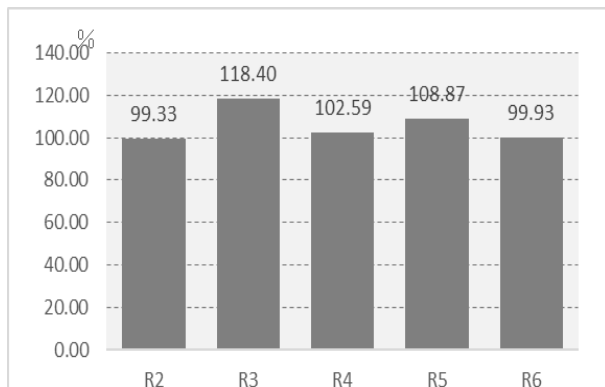


### (3) 居宅介護支援事業

#### ■経常収支比率 (%)

$$= \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

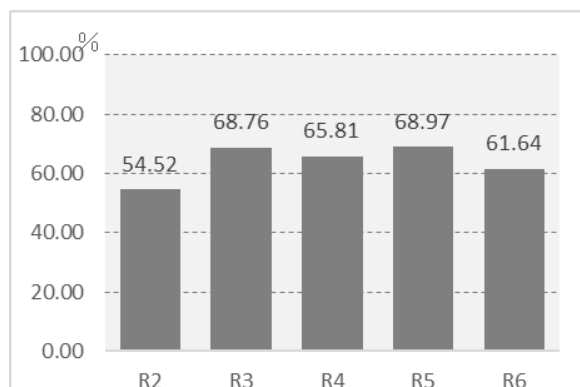
※経常的な収支を示した指標。100%を超えて比率が高いほど良好といえる。



#### ■事業収支比率 (%)

$$= \frac{\text{事業収益}}{\text{事業費用}} \times 100$$

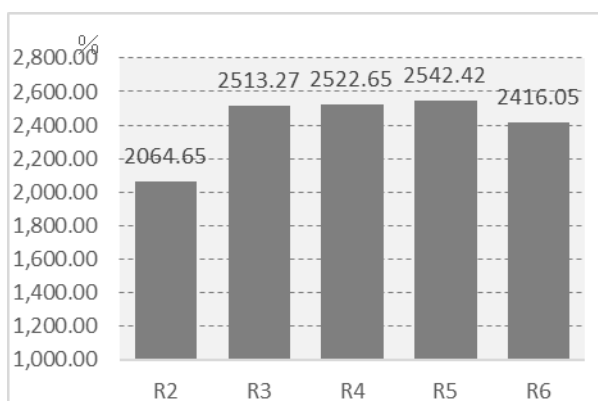
※主たる事業活動による収支を示した指標



#### ■流動比率 (%)

$$= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

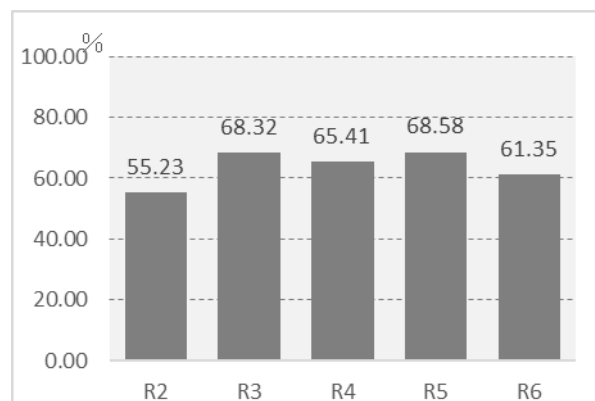
※短期債務に対する支払い能力を示した指標。



#### ■実質収益対経常費用比率 (%)

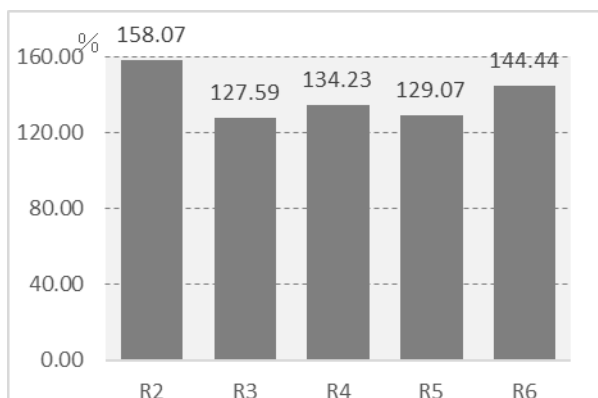
$$= \frac{\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}}{\text{経常費用}} \times 100$$

※他会計繰入金を引いた実質収益による収支を示した指標。



#### ■職員給与費比率 (%)

$$= \frac{\text{給与費}}{\text{事業収益}} \times 100$$



## 第4 審査意見

### 1 新温泉町浜坂温泉配湯事業

- (1) 経営戦略をもとに、経営の効率化・改善に努められたい。
- (2) 徴収見込みのない未収金については、債権管理条例等を制定するなど、対策を研究されたい。

### 2 新温泉町水道事業

- (1) 経営戦略をもとに、計画的な施設整備と経営基盤の安定を図り、引き続き経営の効率化に引き続き努められたい。
- (2) 水道使用料の未収金については、引き続き給水停止等実効性ある取り組みを行われたい。
- (3) 経営戦略に基づく中長期の見通し及び精度向上のため、早急な水道料金の改定を進められたい。

### 3 新温泉町下水道事業

- (1) 施設の改修、整備及び事業の外部委託を含め、より一層の経営改善に努められたい。
- (2) 未収金については、滞納の解消に向けて、引き続き実効性ある取り組みを行われたい。
- (3) 経営戦略に基づき、精度向上に努めるとともに早急な下水道料金の改定と統一を進められたい。

### 4 新温泉町公立浜坂病院事業

医療技術者等の人材確保と人材育成に努められたい。

自治体事業としての役割を常に検証しながら、コスト縮減に努められるとともに、経営の効率化・改善に努められたい。

診療所を含めた地域医療のあり方等については、交通政策と合わせ抜本的な改革を強く望むものである。

未収金については、他の私債権と同様に債権管理条例制定へ向けた研究を進められたい。

#### (1) 病院事業

ア 「公立浜坂病院経営強化プラン」に沿った改革を継続し、地域における良質な医療を確保されたい。

イ 備品、医療機器の購入及び管理については、適正に行い、有効に活用されたい。

#### (2) 介護老人保健施設事業、居宅介護支援事業、訪問看護ステーション事業

ア 利用者とその家族のニーズに対応したサービス提供を徹底されたい。

イ 入所・通所稼働率の向上及びコスト縮減に努めるとともに、経営改善を図られたい。